

高岡商工会議所地域経済動向調査

(令和7年度 第2四半期・令和7年7月～令和7年9月)

◆ 売上高の動向と先行き不安

全産業の売上高 DI は前回からやや改善したものの依然としてマイナス水準。

◆ 採算性・資金繰り・人手不足の厳しさ

採算性は一部で改善したものの卸売・小売業では悪化し、資金繰りも厳化。従業員不足も深刻で、経営回復の大きな制約となっている。

◆ 業種ごとの経営課題と支援の必要性

建設・サービス業は人材確保難や人件費増、卸売・小売業は需要停滞が課題であり、業種ごとに即した支援が急務となっている。

- ・売上高の対前年同期比について、全産業の売上高 DI は-11.9 ポイントと、前回調査（-12.9 ポイント）から 1.0 ポイント改善した。
- ・業種別では、卸売業（-18.1 ポイント）・小売業（-53.3 ポイント）で大幅な落ち込みが見られ、特に電化製品・文化品・他の小売業（-73.0 ポイント）では深刻な需要減退が示唆されている。
- ・来季の売上高の見通し（対前年同期比）では、「増加」と見込む企業が 18.9%と前回（20.9%）を下回り、「減少」と見込む企業が 35.4%と前回（28.8%）を大きく上回っており全体として企業の先行きに対する楽観的な見方が後退し、慎重または悲観的な見方が強まっている。
- ・採算性においても全産業の採算性 DI は-17.6 ポイントと前回 DI から 4.9 ポイント改善。業種別にみると建設業・サービス業で一定の回復が見られるものの、卸売業（-8.6 ポイント）、小売業（-27.4 ポイント）と落ち込んだ。人手不足や売上の減少が利益を圧迫している可能性が高い。
- ・資金繰りの DI は-15.4 ポイントと悪化傾向が継続している。収益力の低下が重荷となっているほか、金融機関からの借入等の条件変更や運転資金の確保への不安感が背景にあると思われる。
- ・今期の従業員水準に関して、全業種の DI は-20.3 ポイントであり、引き続き従業員不足の状況が続く。特に建設業（-61.5 ポイント）、サービス業（-36.8 ポイント）では深刻であり、人手不足が業務運営や売り上げ回復の阻害要因となっている。
- ・直面している経営上の問題では、建設業やサービス業では「従業員の確保難」、「人件費の増加」といった人材面での問題が上位に挙げられた。一方、卸売業や小売業では「需要の停滞」が上位に挙げられており、収益力や人材確保が喫緊の経営課題となっている。
- ・今回の景況調査では、卸売業・小売業の需要停滞や建設業・サービス業の人材不足が深刻で、資金繰りや採算面にも不安が広がっています。商工会議所では、販路拡大や資金繰り支援、人材確保に向けた取組を進めるとともに、個別の経営課題に応じた支援を行い、地域企業の安定経営と経済活性化に努めてまいります。

高岡商工会議所地域経済動向調査

(令和7年度 第2四半期・令和7年7月～令和7年9月)

調査月 令和7年7月～令和7年9月 (基準日9月1日)

対象 高岡市内事業所 330社

回答数 128社 (回収率 38.8%)

回答業種内訳及び構成比

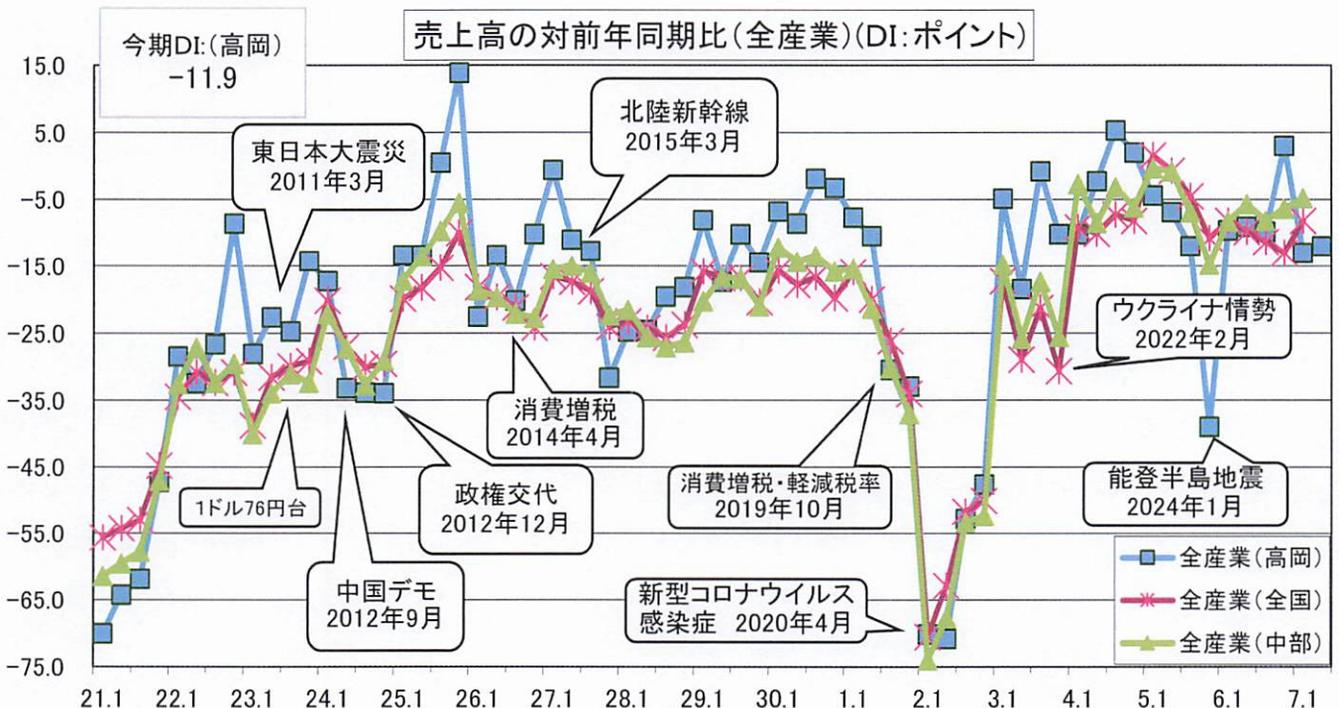
	建設	製造	卸売	小売	サービス	全体
回答数	14社	61社	21社	13社	19社	128社
%	10.9%	47.7%	16.4%	10.2%	14.8%	100.0%

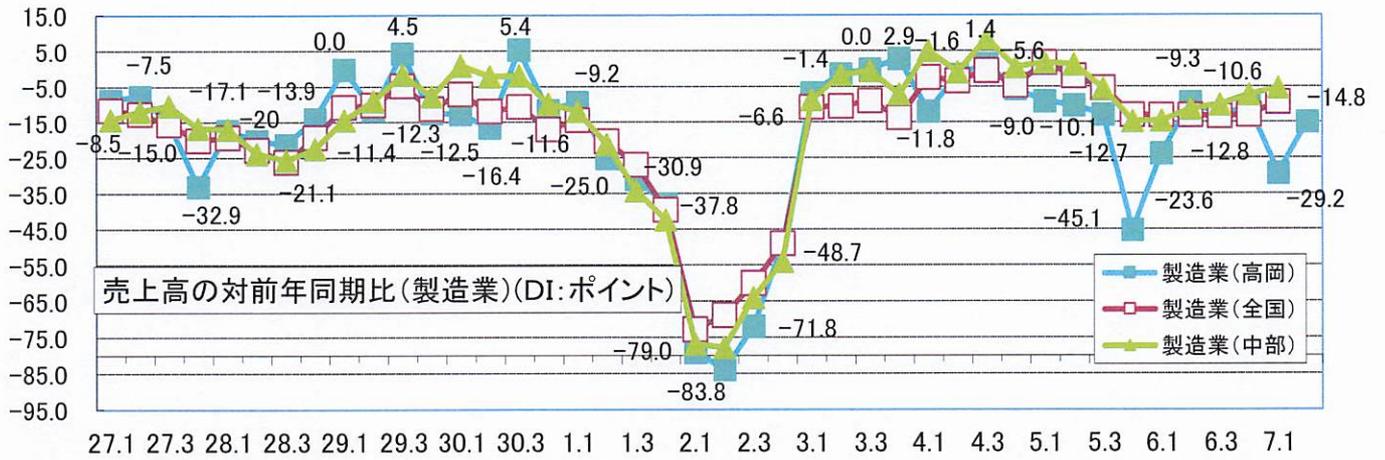
■1. 売上高の対前年同期比

(%) (ポイント)

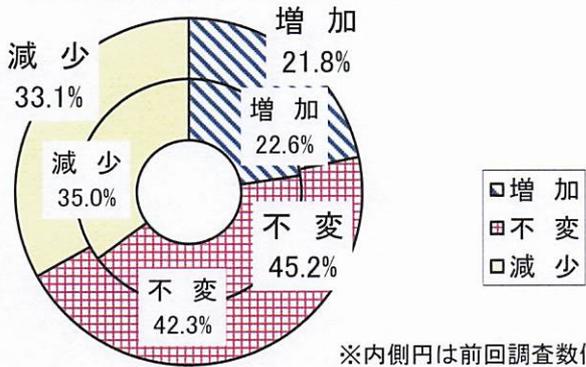
※全国、中部DIは前回調査分

		増加	不変	減少	DI	前回DI	変化	全国DI
業	建設業	46.2	38.5	15.4	30.8	5.9	24.9	-9.9
	総合・土木	33.3	44.4	11.1	22.2	0.0	22.2	-
	建築・職別工事	60.0	20.0	20.0	40.0	14.3	25.7	-
	製造業	24.6	36.1	39.3	-14.8	-29.2	14.4	-9.2
	銅器・漆器	8.3	25.0	66.7	-58.3	0.0	-58.3	-
	アルミ・機械・化学・電気	38.7	29.0	32.3	6.5	-36.1	42.6	-
食品・繊維・紙・他	12.5	50.0	37.5	-25.0	-50.0	25.0	-	
種	卸売業	19.0	23.8	57.1	-38.1	-20.0	-18.1	-5.6
	銅器・漆器	0.0	0.0	100.0	-100.0	-80.0	-20.0	-
	その他	28.6	28.6	42.9	-14.3	-10.5	-3.8	-
	小売業	15.4	15.4	61.5	-46.2	7.1	-53.3	-16.5
	食品・衣料・雑貨	25.0	0.0	75.0	-50.0	-14.3	-35.7	-
	電化製品・文化品・他	11.1	22.2	55.6	-44.4	28.6	-73.0	-
サービス業	31.6	57.9	10.5	21.1	21.1	0.0	-0.9	
全産業	26.2	35.7	38.1	-11.9	-12.9	1.0	-8.1	

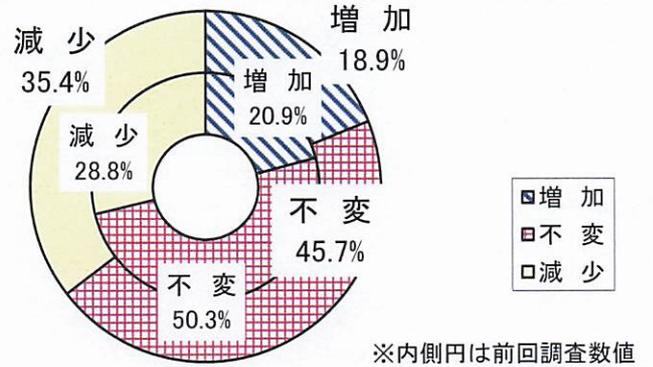




■ 2-1. 売上高の対前期比



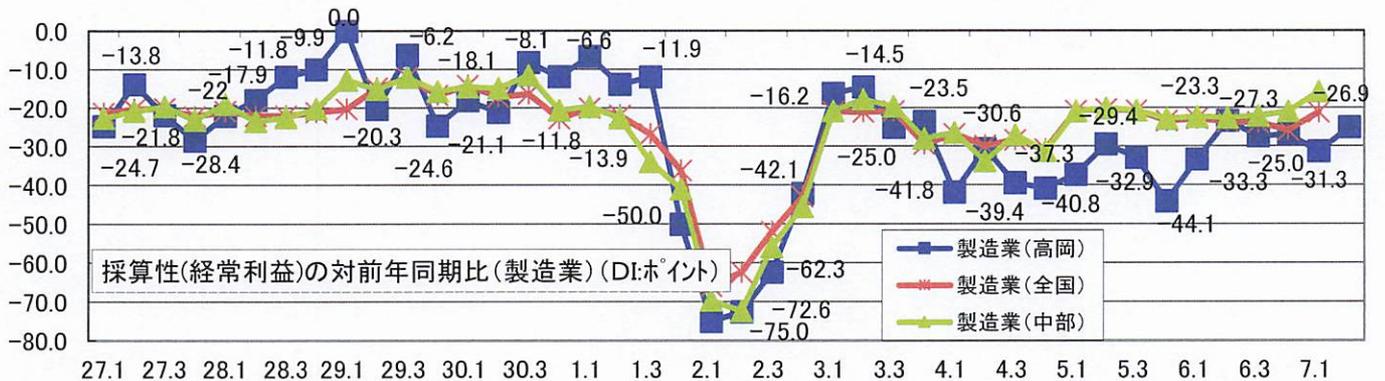
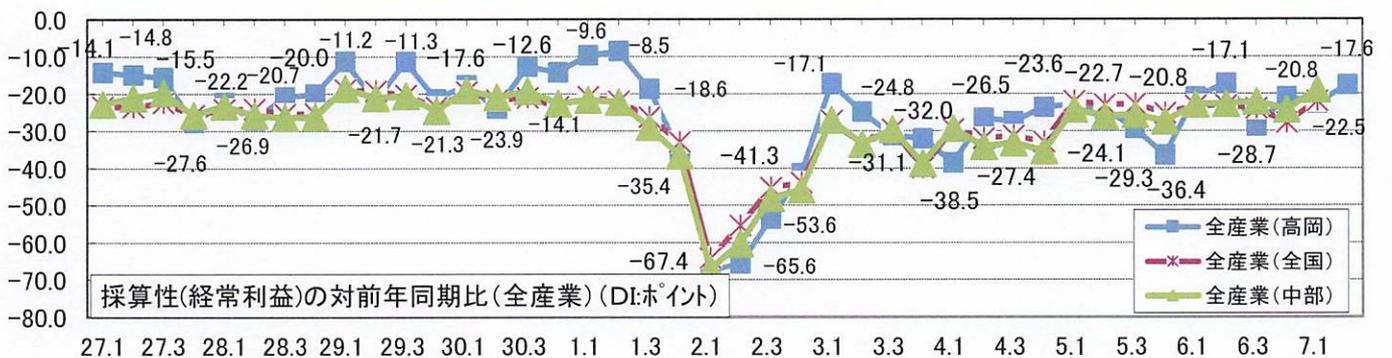
■ 2-2. 売上高の来期見通し(対前年同期比)



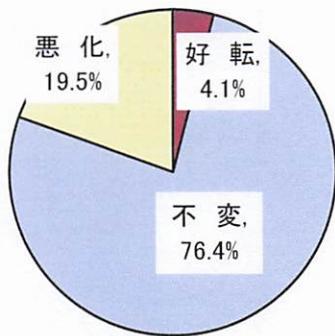
■ 3. 採算性(経常利益)の対前年同期比(%) (ポイント)

※全国DIは前回調査分

業種		採算性			DI	前回DI	変化	全国DI
		好転	不変	悪化				
業種	建設業	38.5	38.5	23.1	15.4	-5.9	21.3	-18.7
	製造業	18.3	38.3	43.3	-25.0	-31.3	6.3	-21.2
	卸売業	19.0	33.3	47.6	-28.6	-20.0	-8.6	-13.5
	小売業	16.7	25.0	58.3	-41.7	-14.3	-27.4	-29.8
	サービス業	21.1	68.4	10.5	10.5	-16.7	27.2	-19.5
	全産業	20.8	40.8	38.4	-17.6	-22.5	4.9	-21.9



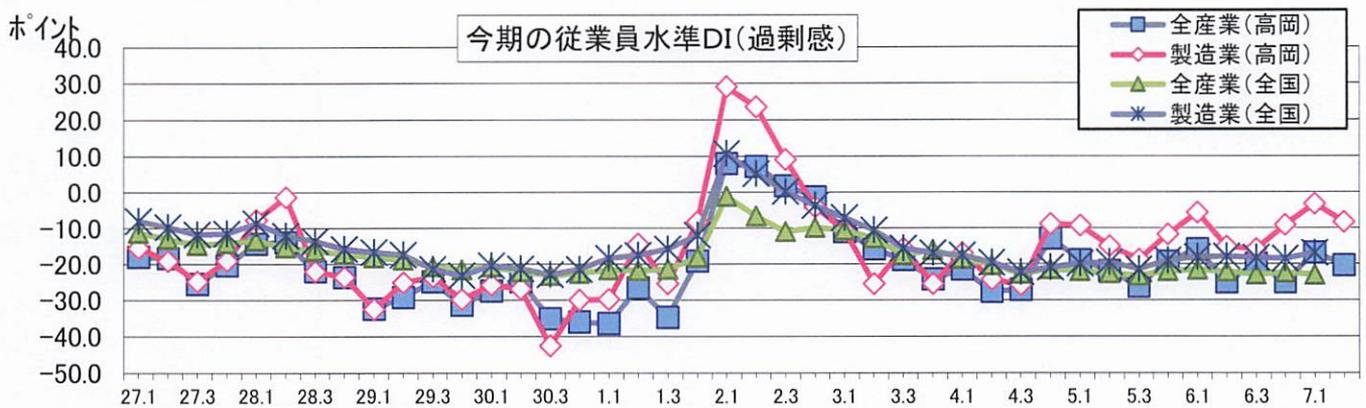
■ 4. 資金繰り(前年同期比)



資金繰り(前年同期比)の推移

	好転	悪化	DI
7.2	4.1%	19.5%	-15.4
7.1	8.2%	11.9%	-3.7
6.4	4.0%	17.6%	-13.6
6.3	6.4%	14.2%	-7.8
6.2	2.9%	11.6%	-8.7
6.1	4.9%	11.8%	-6.9
5.4	1.4%	19.1%	-17.7
5.3	6.1%	15.6%	-9.5
5.2	5.0%	17.0%	-12.1

■ 5. 今期の従業員水準(今期の過剰感)



従業員水準(過剰感)の推移

(ポイント)

	R5.3	R5.4	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4	R7.1	R7.2
建設業	-64.3	-54.5	-50.0	-64.3	-70.0	-75.0	-70.6	-61.5
製造業	-18.6	-11.6	-5.6	-15.1	-15.8	-9.1	-3.2	-8.3
卸売業	-11.1	-8.0	-8.7	-22.7	-13.0	-27.3	-8.0	-15.0
小売業	-33.3	-31.3	-14.3	-23.1	0.0	-36.4	-23.1	-18.2
サービス業	-40.0	-31.6	-31.8	-38.9	-31.6	-41.2	-21.1	-36.8
全産業	-26.2	-19.3	-15.8	-25.0	-19.9	-25.0	-16.8	-20.3

※数字が小さいほど不足感が強い

■ 6. 直面している経営上の問題(各業種の回答上位)

複数回答

建設業	①従業員の確保難	21.4%
	②下請業者の確保難	14.3%
	③材料価格の上昇	11.9%
製造業	①原材料価格の上昇	15.0%
	①人件費の増加	15.0%
	①需要の停滞	15.0%
卸売業	①需要の停滞	18.9%
	②従業員の確保難	17.0%
	③人件費以外の経費の増加	11.3%
小売業	①需要の停滞	17.6%
	②消費者ニーズの変化への対応	14.7%
	②従業員の確保難	14.7%
サービス業	①人件費の増加	18.2%
	②従業員の確保難	16.4%
	③利用者ニーズの変化への対応	14.5%